

1 「生徒による授業評価」報告書について

○ 全県立高等学校及び中等教育学校（後期課程）における12月1日から1月15日までの「生徒による授業評価」の結果、「生徒による授業評価」に関わる取組及び授業改善に向けた取組などについて集計・分析した。

○ 令和5年度の「生徒による授業評価」の評価結果の回答総数は次のとおりである（第1表、第2表）。

第1表 共通教科回答総数

国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	理数
146,783	86,823	47,939	111,001	112,215	135,994	42,234	151,472	36,901	34,463	772

第2表 専門教科回答総数

農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語
5,722	15,734	5,772	802	1,983	558	485	2,758	246	2,614	620	1,655	98

○ 令和元年度から、高等学校学習指導要領の改訂等に対応するため、すべての質問項目を改訂した（第3表）。

第3表 「生徒による授業評価」の質問項目（共通小項目）

大項目	共通小項目（標準例）		項目の趣旨
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとまり）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある	「主体的な学び」に関する項目
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある	「対話的な学び」に関する項目
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある	「深い学び」に関する項目
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた	「項目1」と関連の深い項目
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知するなど、自らの考えを広げ深めることができた	「項目2」と関連の深い項目
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた	「項目3」と関連の深い項目
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた	より高次な学びの構築に関する項目

○ 学校で取り組んでいる研究の成果指標として活用したり、生徒の実態に即した項目を設定したりするため、7項目の共通小項目に加えて、さらに学校独自の小項目を設定することができる。各学校で独自の小項目を設定する際の参考のため、学校独自の小項目の例を次のとおり掲載する。

- 授業で分からないところがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどして分かろうとする努力をしている。
- 教師から学習評価について説明されている。
- 先生は、生徒一人ひとりに目を配ってきめ細かく指導している。
- 教材が取り組みやすく、理解が深まるように工夫されている。
- この科目におけるICTを活用した学習について、現状に近いものはどれですか。
 - 意欲が高まり、理解が深まっている。
 - 楽しく学習できている。
 - ICTの良さをあまり実感できていない。
 - ICTはあまり活用していない。
 - その他（ ）
- 自身の端末(chromebook等)を自宅学習で利用している。
- 授業の中で、新しいことや難しいことなどにチャレンジする機会がある

2 集計・分析の結果

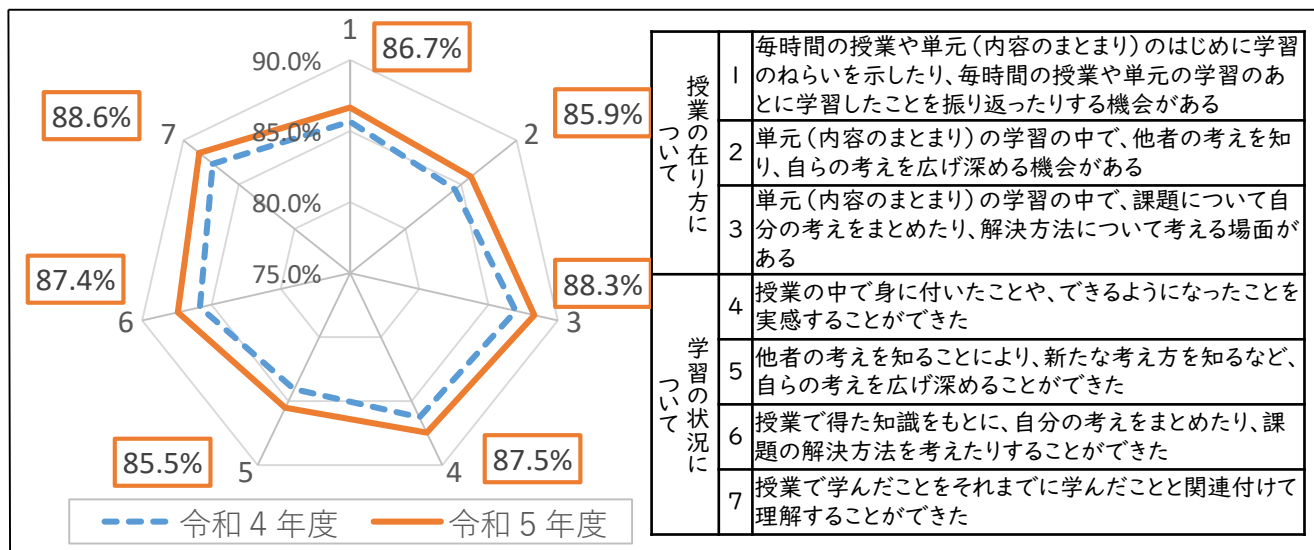
(1) 共通教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答(評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」)をした割合を、共通小項目ごとに示した(第4表)。

第4表 共通教科の集計結果 (単位は%、小数第2位を四捨五入)

共通小項目	国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	理数	平均
1	86.8%	87.2%	87.4%	85.5%	85.3%	88.2%	87.2%	87.0%	86.4%	83.8%	88.3%	86.7%
2	88.7%	84.7%	86.9%	83.7%	83.1%	86.3%	85.3%	88.0%	85.8%	81.6%	90.5%	85.9%
3	89.5%	87.1%	88.6%	88.4%	87.0%	89.2%	88.0%	88.7%	87.4%	86.2%	95.1%	88.3%
4	86.4%	85.8%	86.0%	87.8%	85.5%	90.0%	90.9%	87.9%	88.5%	86.5%	86.9%	87.5%
5	87.8%	84.8%	87.2%	83.3%	82.9%	86.6%	86.2%	86.3%	85.5%	81.9%	90.4%	85.5%
6	87.7%	86.8%	87.8%	86.9%	86.0%	88.9%	88.4%	87.8%	87.3%	85.3%	93.7%	87.4%
7	87.9%	89.6%	89.3%	88.0%	87.7%	89.3%	88.7%	89.2%	88.6%	85.8%	91.6%	88.6%

○共通教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第1図)。



第1図 共通教科全体において、肯定的な回答をした割合

○共通小項目における肯定的な回答の割合は、令和元年度から増加傾向がみられる。共通小項目1を除く六つの共通小項目における肯定的な回答の割合は、令和元年度と比較して4ポイント程度上昇した。各学校が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて組織的な授業改善を進めてきた成果であると考えられる。

○「主体的な学び」に関する共通小項目1は、他の項目と比較して、令和元年度から増加した割合が小さい。「主体的に学習に取り組む態度」の育成に必要な「学習における自己調整」という側面からも、「見通しと振り返り」が、単に活動に対する見通しや振り返りに終始せず、単元に基づくものとなるよう、「指導と評価の一体化」を実現するための教材研究を実施する等、各学校における組織的な授業改善をさらに進めていくことが必要である。

○また、共通小項目2と5の「対話的な学び」に関する項目が、他の共通小項目より少し低い傾向が見られる。令和2年度、3年度についてはコロナ禍が原因の一つとして考えられるが、まずは「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会」を増やすことが求められる。

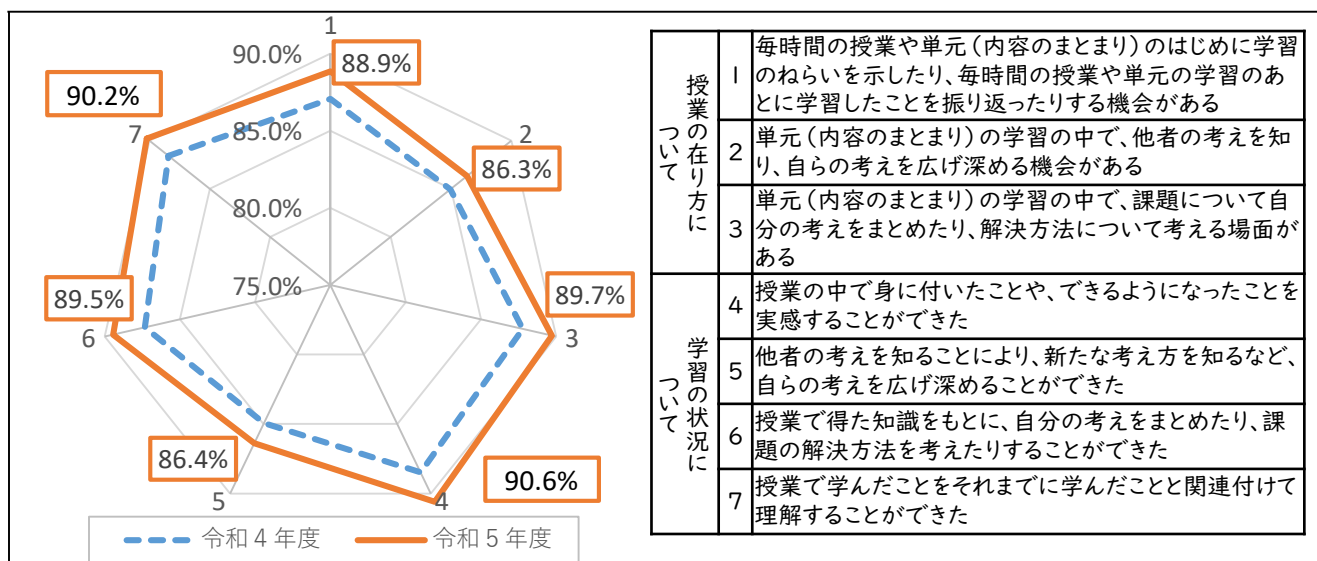
(2) 専門教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答(評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」)をした割合を、共通小項目ごとに示した(第5表)。

第5表 専門教科の集計結果 (単位は%、小数第2位を四捨五入)

共通小項目	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語	平均
1	86.8%	88.4%	84.3%	94.0%	91.0%	98.7%	86.2%	93.5%	88.2%	96.3%	90.5%	88.5%	87.8%	88.9%
2	84.4%	85.1%	81.6%	90.1%	89.5%	99.5%	80.8%	92.6%	81.3%	95.6%	86.1%	88.3%	91.8%	86.3%
3	88.3%	88.5%	87.5%	93.6%	91.3%	99.6%	87.0%	93.7%	90.2%	96.2%	92.3%	90.4%	90.8%	89.7%
4	91.0%	88.8%	88.5%	94.8%	93.0%	98.7%	87.8%	93.1%	89.4%	96.7%	94.7%	91.0%	94.9%	90.6%
5	85.4%	84.5%	81.9%	90.1%	89.8%	99.3%	82.6%	92.0%	80.5%	95.8%	90.0%	89.5%	89.8%	86.4%
6	89.5%	88.0%	86.6%	93.4%	91.1%	99.3%	85.5%	92.6%	86.6%	95.8%	90.8%	91.9%	92.9%	89.5%
7	90.3%	88.6%	88.0%	92.9%	92.2%	99.3%	89.0%	93.0%	88.2%	96.0%	94.2%	91.5%	96.9%	90.2%

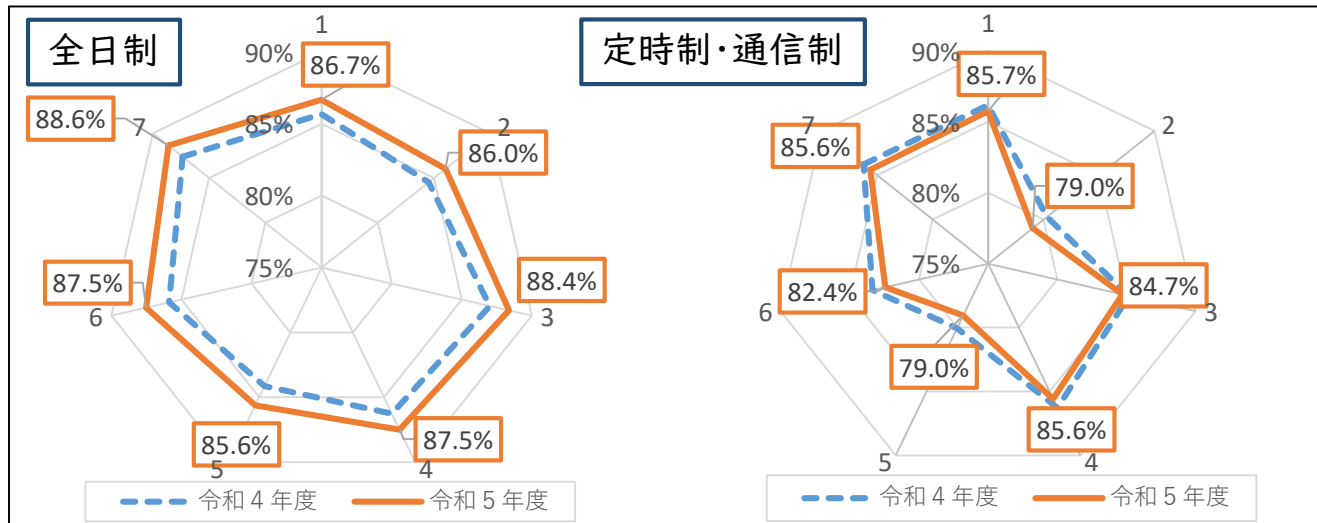
○全問教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第2図)。



第2図 専門教科全体において、肯定的な回答をした割合

(3) 全日制課程及び定時制・通信制課程について

○全日制課程と定時制・通信制課程の共通教科全体において、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第3図)。



第3図 共通教科全体(課程別)において、肯定的な回答をした割合

3 「生徒による授業評価」に関わる取組、授業改善に向けた取組など

(1) 「生徒による授業評価」の活用

「生徒による授業評価」をどのようにいかしているかについて、各学校から次のような回答があった。

- 職員一人ひとりへ回答を表にまとめたものを返却し、レーダーチャートを作成し、個人で振り返るとともに、教科会で共有している。
- 前期結果はその内容を分析して後期の授業改善にいかすとともに、その内容をもとに教科ごとに指導案を作成して公開研究授業を行い、具体的な改善方策を検討している。後期結果は、その検証にいかしている。
- 本校教員はもとより生徒、保護者に対しても文書やHPで公表した。教員は学習指導の方法等について客観的に見直すことができ、生徒は自身の学習への取組を振り返るきっかけとなった。
- 集計結果を教科、科目、個人で集計し、個票で印刷し教員一人ひとりに配付している。自由記述を回覧し、他教科での参考にすべき部分や改善すべき部分を共有している。

(2) 「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法

「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法について、各学校から次のような回答があった。

- 生徒に用紙を配付して記入させたうえで授業担当者が結果をエクセルデータに入力する形式だけでなく、Google Formsで回答させる形式を取ることで集計がスムーズになった。
- 外国につながるのある生徒が半数以上のため、小項目の質問を簡単な言葉使用に変更し、中国語・英語・ネパール語の翻訳も併記している。しかし、自由記述欄への記載が全くないため、生徒の声をどこまで吸い上げられているか疑問が残る。
- 本校では「生徒による授業評価」の他に年2回以上の職員研修会の実施と授業改善の共通テーマを設定し、全教科を対象とする授業の互見週間を通じて授業改善に取り組んでいる。
- 全体的にどの項目も「あてはまる」という回答が多く占めている。その中で、「あてはまらない」といった回答も一定数いることを踏まえ、その数を減らしていく授業改善を行っていく。例えば、意見共有や自分の考え、作品をまとめ発表する場として、ICTを活用するなど従来の活動だけに頼らず、複数の形態の学習方法を取り入れていき、授業の方法を多様化していく。その後のフィードバックにもしっかりと力を入れていく。

(3) 「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組

「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組について、各学校から次のような回答があった。

- 自律的に探究に取り組む態度を養うためのデジタル・ポートフォリオの活用に向けた教員全体対象の研修会を開催し、考え方を共有した。また、授業公開を実施し、他校の参加者を含めた教科・学年を超えた授業見学とその後の協議を通して授業改善を促した。
- 年間を通してグローバル研究推進チームを設置し、「総合的な探究の時間」の教科等横断的かつ三箇年積み上げ型の授業内容の確立と推進、ICTを活用した更なる授業改善の推進、多様な考えを理解し新たな考えを発信できる教育の推進、校内の情報共有と研修及び研究授業を行っている。
- 教科等横断的な視点をもった授業づくりのために校内での他教科授業見学会を行っている。近隣中学校との授業見学会を実施しており、中学校での学習過程を踏まえ、中高の学びをつなげることで効果的な授業の実践を目指している。
- 授業力向上ワーキンググループによるICT等の環境設定や授業実践の蓄積、先進的な取組を行っている学校の視察などで得た情報を適宜共有している他、教育計画グループ主催で授業研究会（研究授業及び研究協議）を行っている。また、学力向上進学重点校及びエントリー校教員対象研究会などに参加している。

4 「生徒による授業評価」のよりよい活用のために

- 令和元年度から5年度のデータから、各学校における組織的な授業改善が着実に促進されていることが分かる。全ての生徒の学びがよりよくなるよう、各学校の課題を教職員内で共有し、各学校の特色をいかして、生徒一人ひとりが資質・能力を身に付けるために指導と評価の一体化を踏まえた指導計画を立てていただくことを期待する。